

3-6 考古遺跡における液状化痕データの の収集並びにデータベース化

東京大学地震研究所

首都圏における考古遺跡の液状化痕跡データの 収集及びデータベース化(平成22年度)

- 関東7都県 + 山梨県のうち、今年度は東京・神奈川・千葉の3都県を対象に情報を収集する。
- 昨年度実施した埼玉・群馬・栃木と同様に、1996年以降に実施された遺跡発掘報告書を確認し、その中から、液状化の痕跡を抽出、調査票に整理する。
- 整理する項目は、都道府県名、遺跡名(よみがな)、所在地、緯度、経度、標高、液状化脈の規模(幅、長さ、方向)、貫く地層と年代、被覆される地層と年代、年代根拠、年代決定方法、調査機関、調査期間、出典とする。
- 実施予定:8~9月千葉県、9~11月東京都、10~12月神奈川県を予定している。

主な目的

- 同時期に液状化痕跡がみられる遺跡の分布範囲から、その地震がもたらした強震動の範囲を推定し、震源域に関する情報が得られるかを検討する。
- 関東地震、特に元禄地震(1703)以前の地震に関する情報を、過去の強震動の記録である液状化痕跡から得られるかを検討する。
- 東京都、神奈川県、千葉県における考古遺跡発掘調査報告書に記載されている液状化痕跡をまとめ、昨年度作成したデータベースに追加・修正を加える。

進捗状況

- **千葉県**: 250編程度の報告書類をチェックしたが、現時点で液状化痕跡は0である。
- **東京都、神奈川県**: 液状化痕跡が多数あるという情報は得ているが、詳細はこれから収集する。

液状化データベースの項目テーブル

項目名	データ種別	桁数	データ例	備 考
地震痕跡ID	半角テキスト	9	092134121	県コード(2桁)+市コード(3桁)+遺跡ID(3桁)+地震の回数(1桁)
遺跡名	全角テキスト	100	古屋敷遺跡	まずは報告書の名前の遺跡名を入れる。後で整理して一元化。
フリガナ	全角テキスト	200	ふるやしきいせき	
緯度	整数	2	36	ゼロ表示はなし
分	整数	2	57	
秒	整数	2	21	
度表示	実数	XX.XXXXX	36.95583	
経度	整数	3	139	
分	整数	2	53	
秒	整数	2	20	
度表示	実数	XXX.XXXXX	139.88888	
地震痕跡の有無	半角テキスト	1	1	1:有り、2:無し
地震痕跡の種類	半角テキスト	1		1:噴砂、2:地割れ(断層を含む)、3:その他
噴砂の規模	半角テキスト	1		1:噴砂が複数ある。2:噴砂がある。3:なし
被覆層	全角テキスト	30		確認出来ない場合は無し
被覆層の時代	全角テキスト	30		
被貫入層	全角テキスト	30		年代が解る表現(住居名、遺構名)
被貫入層の時代	全角テキスト	30		
噴砂の主方向(-90~+90)	整数	2	25	
幅(cm)	整数(cm)	3	12	
粒径	半角テキスト	1	1	1:砂、2:礫を含む、3:礫混じり、4:不明
時代分類1(縄文)	半角テキスト	1		0、または1 1:液状化が発生した可能性のある時代
時代分類2(弥生)	半角テキスト	1		0、または1
時代分類3(古墳前期)	半角テキスト	1		0、または1
時代分類4(古墳中期)	半角テキスト	1		0、または1
時代分類5(古墳後期)	半角テキスト	1		0、または1
時代分類6(奈良)	半角テキスト	1		0、または1
時代分類7(平安前期)	半角テキスト	1		0、または1
時代分類8(平安中期)	半角テキスト	1		0、または1
時代分類9(平安後期)	半角テキスト	1		0、または1
時代分類10(中世)	半角テキスト	1		0、または1
時代分類11(近世)	半角テキスト	1		0、または1
時代分類12(近世以降)	半角テキスト	1		0、または1

今年度の作業内容

項目	対象とする都県	実施年度		
		H21	H22	H23
遺跡発掘報告書の確認作業と液状化一覧表の作成	茨城県			
	栃木県			
	群馬県			
	埼玉県			
	東京都			
	千葉県			
	神奈川県			
	山梨県			
GIS、DB化・結果のとりまとめ	-			

平成21年度は、埼玉県・群馬県・栃木県の資料を収集・整理し、データベース化の検討をした。

平成22年度は、東京都・神奈川県・千葉県の資料を収集・整理する。前年度に実施した県については、データの追加を行う。

平成23年度は、茨城県・山梨県の資料を収集・整理し、前年及び前々年度に実施した都県については、データの追加を行う。さらに、蓄積してきた1都7県の資料をとりまとめ、データベース化を行う。